

経済システム専攻のカリキュラムについて

(1) 経済システム専攻のカリキュラム構成

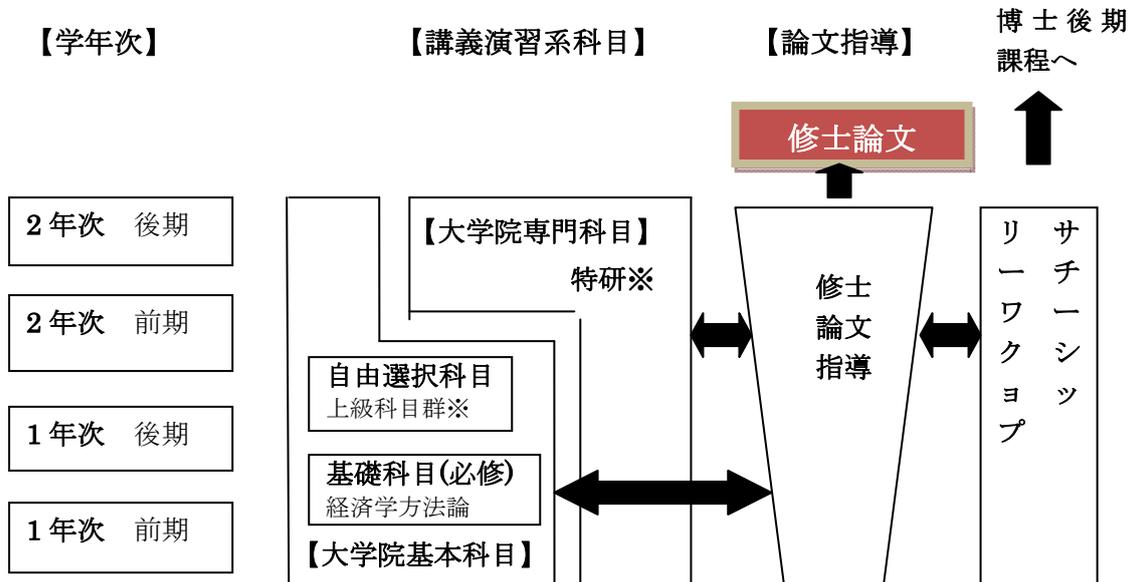
経済システム専攻は、経済システムを「現代経済・世界経済分析」「産業分析」「企業分析」という3つの側面から多面的、多層的、総合的に分析し、高い専門性だけでなく、広い問題関心と鋭敏な現実感覚、複合的な分析能力を身につけるため、修士課程、博士後期課程それぞれにおいて、以下のとおりのカリキュラムを提供しています。

修士課程においては、大学院レベルの経済学の方法論や論文執筆の技法・ルールなどを修得するための「経済学方法論」を必修の基礎科目として学びます。学部時代に経済学・経営学を専門に学んでいない学生に対しては学部講義を含む基礎的科目を履修することができます。それと並行して、大学院レベルの各分野における最新の標準的体系を修得するための「上級」科目群、および、上級科目を基礎に、専門性をさらに個別に掘り下げるための「特研」科目群が、上記の3つの側面に沿って配置されており、学生が執筆する修士論文に関連する専門科目の他、隣接する専門科目を履修できるようになっています。こうして身に付けた専門性は、2年間にわたるきめ細かな修士論文指導を通じて、修士学位論文という形でまとめられることとなります。また、博士後期課程進学など研究職を志す学生は、複数の教員や外部の研究者が参加するリサーチ・ワークショップに参加し、その専門性をさらに高めることができるように工夫されています。さらに留学生に対しては特別科目として「日本語経済」に関する特別科目が設けられ、日本語で経済の専門を学び、論文を執筆するため能力を磨くことができます。

博士後期課程においては、現代社会において生起する種々の問題を冷静かつ客観的に観察・分析し、それを踏まえて深く課題を探索し、問題の解決方向を見出していくための理論・方法を提示することができる研究者・高度専門職業人を養成すべくカリキュラムが編成されています。そこでは、修士課程もしくは研究職で身に付けた高い専門性と総合力を踏まえ、①専門分野における研究能力の一層の向上と、②当該分野の研究を切り開く新たな知見を学問的体系化を目標にカリキュラムが編成されています。①専門分野における研究能力の一層の向上のためには、「経済学方法論」や各種「上級」科目群、「特研」科目群を履修することができます。また複数の教員や外部の研究者が参加するリサーチ・ワークショップに参加し、実際に報告を行うことで、最先端の研究のレベルを知る機会を得ることができます。また②新たな知見の学問的体系化のために、大学院博士後期課程入・進学後速やかに、指導教員と最低2名の副指導教員からなる指導委員会が設置され、指導委員会のきめ細かな指導のもとで修士学位論文の執筆が進められることとなります。論文執筆に必要な内外の学会での報告や各種調査などを支援するための各種の制度も設けられ、優れた論文の完成をサポートしています。

(2) 経済システム専攻のカリキュラムマップ (案)

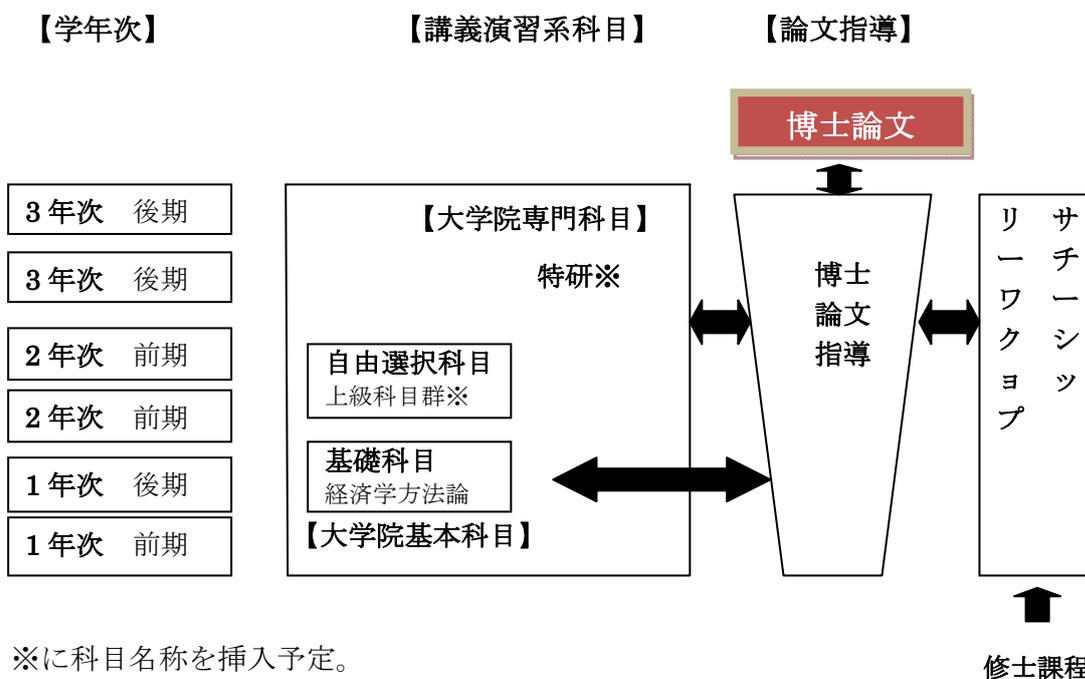
< 修士課程 >



※に科目名称を挿入予定。

Q 学部科目履修をどうするか？

< 博士後期課程 >



※に科目名称を挿入予定。

Q 研究指導にかんする資料+コースワークの仕組みに関する資料

(3)経済・経営学科の学年ごとの達成基準及び対応授業科目表

		達成基準	対応授業科目
1年次	前学期	①高校とは異なる大学における学習に適応する。 ②経済学という学問の内容や方法について理解している。 ②経済学独特の基本用語と概念に慣れる。	【全学教育科目】 コアセミナー 【導入基本科目】 経済学入門
	後学期	①初級から中級レベルのミクロ経済学を理解している。 ②会計学Ⅰの履修では、複式簿記の基礎をマスターし、情報処理Ⅰの履修では、パソコンでのデータ処理を理解している。	【基本科目】 ミクロ経済学 会計学Ⅰ 情報処理Ⅰ
2年次	前学期	①日本経済の仕組みを理解している。 ②会計学Ⅱの履修では、会計学の基礎を理解し、計量経済学Ⅰを履修では、計量経済学の基礎を理解している。	【基本科目】 マクロ経済学 会計学Ⅱ 計量経済学Ⅰ
	後学期	①政治経済学の基本概念を理解している。 ②国際経済学Ⅰ・Ⅱの履修では、国際貿易論・国際マクロ経済学について理解し、経済史Ⅰ・Ⅱの履修では、資本主義生成の過程を理論・実証面から理解する。また、経営学Ⅰ・Ⅱの履修では、経営学の基礎について理解を深める。 ③経済・経営学の基礎知識等を習得している。 ④外国の専門文献を読むことができる。	【基本科目】 政治経済学 国際経済学Ⅰ・Ⅱ 経済史Ⅰ・Ⅱ 経営学Ⅰ・Ⅱ 【選択必修科目】 経済・経営学基本演習 【自由選択科目】 外国書講読
3年次	前学期 後学期	①経済分析系科目を履修することで、今日の経済社会が抱えている問題を理論的・構造的視点から把握し、それらの問題に立ち向かい、解決していく分析力・企画力・創造力を身につける。 ②産業分析系科目を履修することで、変化する産業社会を歴史的・実証的に分析し、将来動向を予測、的確な具体的政策を企画できる、柔軟で創造的な応用能力を身につける。 ③企業分析系科目を履修することで、内外に活動の場を広げている企業の活動をリードし、その抱える問題に対処していく能力を身につける。 ④ゼミナールや専門科目の履修を通じて、自分の将来像を探る。	【選択必修科目】 ・経済分析系科目 ・産業分析系科目 ・企業分析系科目 【自由選択科目】 外国書講読 【必修科目】 経済・経営学演習
4年次	前学期 後学期		